

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	平野区
学 校 名	大阪市立瓜破東小学校
学校長名	新井 寿栄

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立瓜破東小学校では、第6学年41名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校の令和5年度結果と比較すると、国語科の平均正答率の対全国比は0.89ポイントから0.9ポイントに向上し、対全国差は-7.2ポイントから-6.7ポイントに向上した。領域別では「情報の扱い方」で-10.6ポイントから-1.5ポイントに向上し、「書く」で-10ポイントから-0.1ポイントと大きく向上した。また、平均無解答率についても対全国差が+2.1ポイントから+0.1ポイントに向上した。算数科の平均正答率の対全国比は0.85ポイントから0.87ポイントに向上し、対全国差は-9.5ポイントから-8.4ポイントに向上した。領域別では「数と計算」で-13.6ポイントから-4.2ポイントに向上し、「データの活用」で-19.2ポイントから-8.1ポイントと大きく向上した。平均無解答率についても対全国差が+0.9ポイントから+0.1ポイントに向上した。児童質問紙においては、「将来の夢や目標を持っている」の肯定的回答が75ポイントから84.8ポイントと大きく向上している。

分析から見えてきた成果・課題

〔国語〕選択式問題では、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみるものが大阪府・全国の正答率を超える結果であった。また、記述式問題では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみるものと、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみるもので大阪府・全国の正答率を超える結果であった。

〔算数〕選択式問題では、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみるものが大阪府・全国の正答率を超える結果であった。短答式問題では、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみるもので大阪府・全国の正答率を超える結果であった。また、記述式問題では、角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみるものと、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみるもので大阪府・全国の正答率を超える結果であった。

質問調査より

学習の土台に関する質問に分類される項目では、「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定的回答が、50%と令和5年度と比較して25ポイントの低下であったこと、また大阪府平均・全国平均からも約34ポイント低い結果を重く受け止めている。令和6年度より【特別活動】の研究に取り組んでいる。児童の自尊感情の向上につなげられるような研究の在り方をさらに深めていく必要がある。

一方で「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答は、84.8%で令和5年度と比較して9.8ポイントの向上が見られた。また、この84.8%は大阪府平均・全国平均も上回る結果であった。これは、本校がキャリア教育の一環として外部人材等を積極的に活用し、本物に触れる場を設定することで児童に感動体験を与えていることが良い影響を及ぼしていると考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

本校の喫緊の課題に「学力向上」が挙げられる。それには子どもも指導者も「学校が楽しい」と思えることが必要不可欠である。そこで、特別活動（学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事）全体を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るとともに、児童の自尊感情を高めるために令和6年度より〈うたえりそうを ひろがれ ガッツで〉を合言葉に【特別活動】の研究に取り組み始めた。研究を進める中で、様々な場面においての話し合い活動における「適切な支援・援助のあり方」を指導者が工夫・改善することで、子ども一人一人が課題を「自分事」として捉え、課題解決に向けて意欲的に取り組む姿が見受けられるようになっている。

教員の指導力向上のためには、スクールアドバイザーの定期訪問を積極的に活用し「国語科」の指導を仰いでいる。また、国語科以外の教科・領域においては、大阪市小学校教育研究会所属の先生方から直接指導を仰ぐ機会を設けたり、校内の研修会だけでなく、校外での公開授業等の研修の場に参加したりしたことを伝達研修することで全教職員の学びにつなげている取り組みを今後も継続して行っていく。

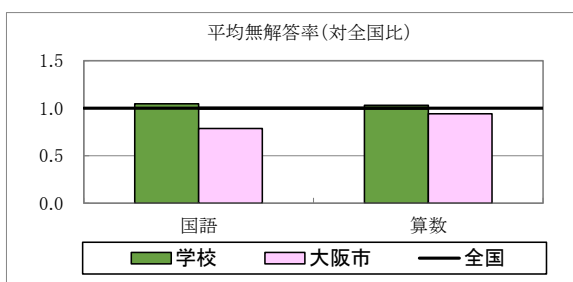
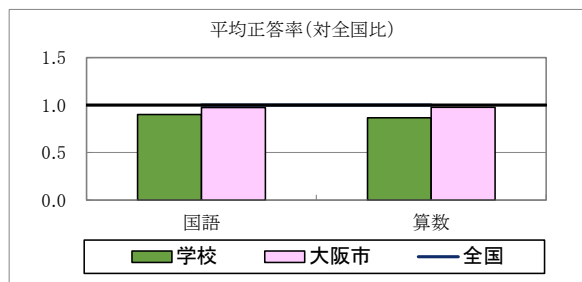
【 全体の概要 】

平均正答率（％）

	国語	算数
学校	61	55
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	4.4	3.5
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4



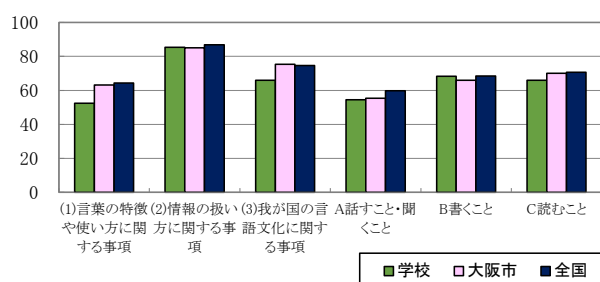
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	52.4	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	85.4	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	65.9	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	54.5	55.3	59.8
B 書くこと	2	68.3	65.9	68.4
C 読むこと	3	65.9	70.1	70.7

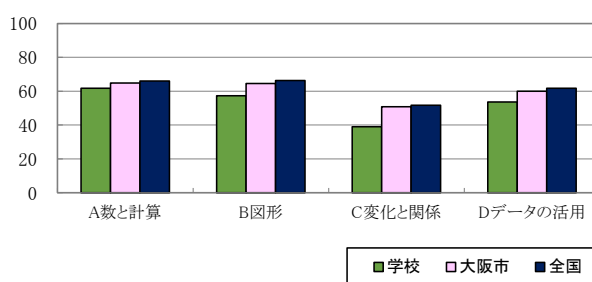
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	61.8	64.8	66.0
B 図形	4	57.3	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	39.0	50.8	51.7
D データの活用	4	53.7	60.0	61.8

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

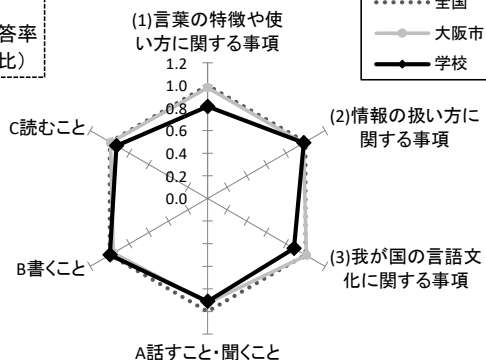


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



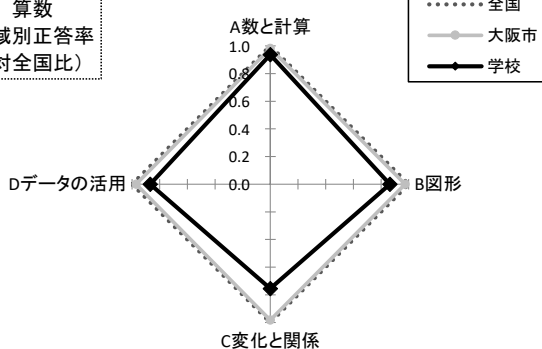
国語

内容別正答率
(対全国比)



算数

領域別正答率
(対全国比)



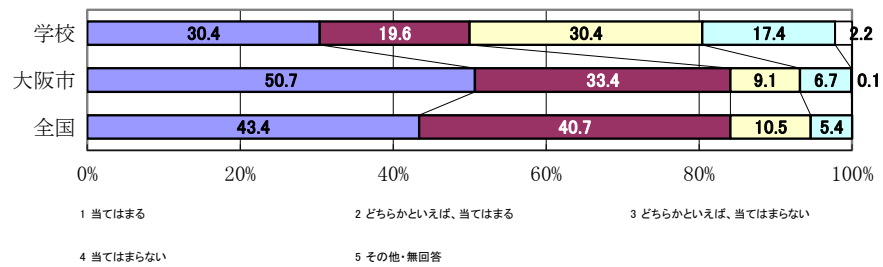
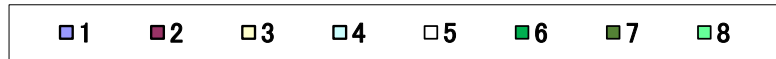
児童質問より

質問番号

質問事項

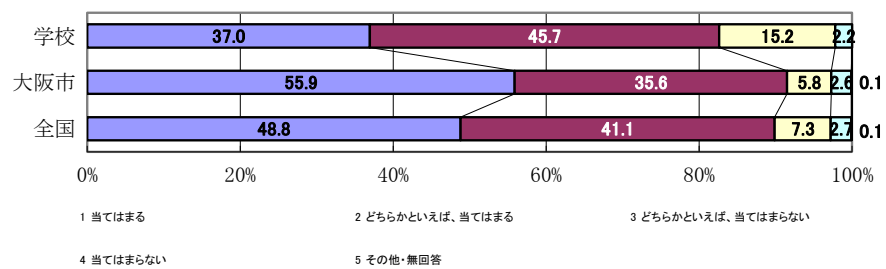
9

自分には、よいところがあると思いますか



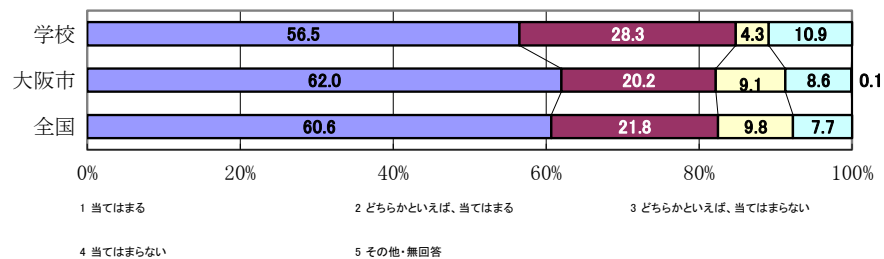
10

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



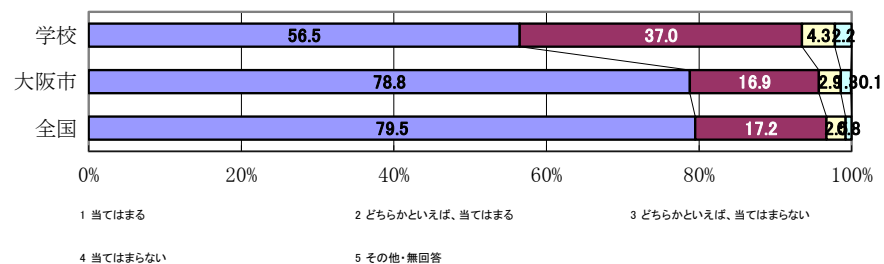
11

将来の夢や目標を持っていますか



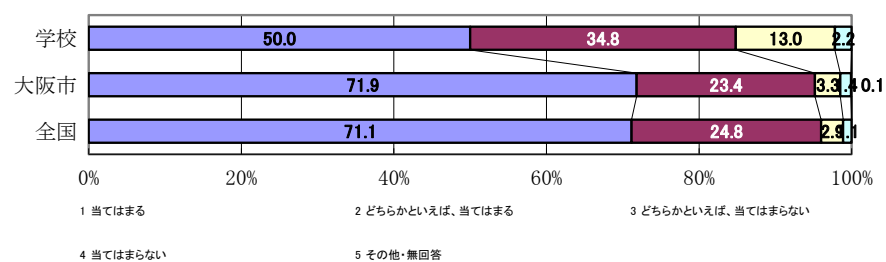
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



学校質問より

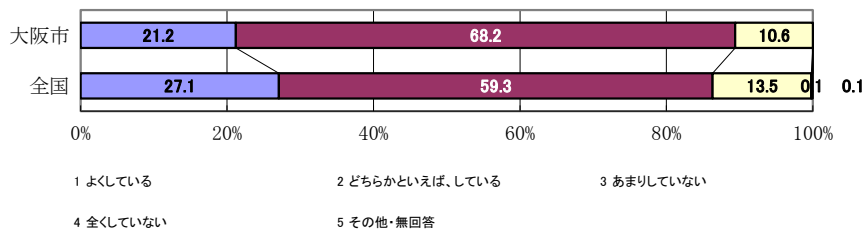
質問番号

質問事項

18

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

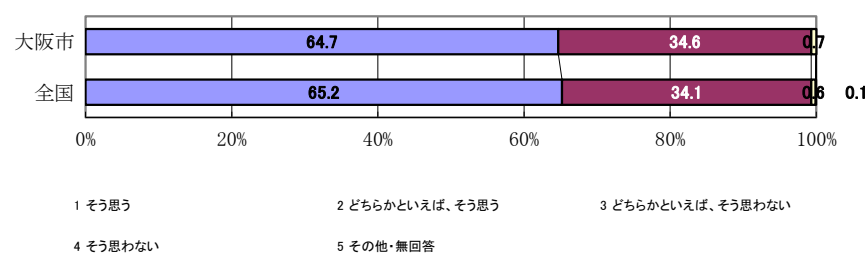
学校 「どちらかといえば、している」を選択



20

学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか

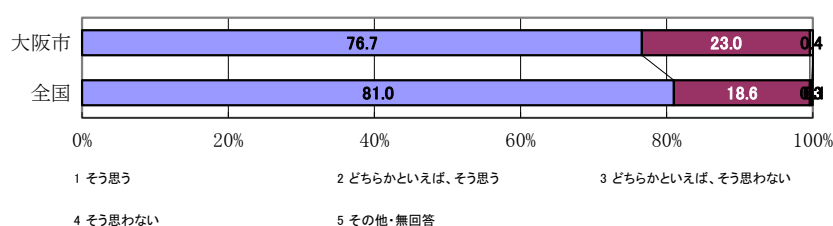
学校 「そう思う」を選択



21

各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか

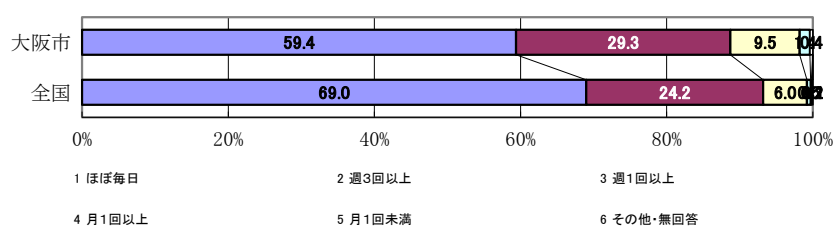
学校 「そう思う」を選択



56

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



57

調査対象学年の児童が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「ほぼ毎日」を選択

